

『イエス様がなされた宣言・3』

'20/07/26

聖書箇所:マルコの福音書 1章 14-28節(新約 p.64-)

今日は、まず、皆さんに質問をさせてください。…果たして、私たちは、“価値があるから”救われたのでしょうか？…申し訳ありません。この質問は、八田西 CC の皆さんからしたら、もう耳にタコができるほど聞き飽きた質問です。でも、毎回言いますように、現代には、そう教える教会が多いのです！「私たち人間は、神様に似せて造られた…、特別な存在だ！だから、天の神様は、私たちのことを高価で尊いと見てくださっている…。私たちは価値があるから救われた！」というような感じです。

命題: イエス様がなされた宣言とは、どういったものだったでしょう？

でも、果たして、それは本当でしょうか？…天の神様は、私たち人間“だけ”を特別なものとして造られたのでしょうか？果たして、私たちは価値があるから救われたのでしょうか？…今日、私たちは、そうしたことに関連して、もう1度、イエス様が公生涯の初めになされた“3つの宣言”に注目していきます。…そうすることによって、私が願いますのは、イエス様というお方が一体何者なのか？その正体を知ることができ、そのイエス様に対して、私たちが正しい理解を持つことと…、また、正しい反応をすることができるようになることでもあります。どうか、今日のメッセージが、皆さんにとって祝福となりますよう願います…。

どうぞ、今回のみことばである、マルコ 1:14 以降をお開きください。まずは、先週までに学んだ 14-20 節までを、私の方で読ませていただきます。そこには、このように記されています。

- 14 ヨハネが捕らえられて後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べて言われた。
- 15 「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」
- 16 ガリラヤ湖のほとりを通られると、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。
- 17 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」
- 18 すると、すぐに、彼らは網を捨て置いて従った。
- 19 また少し行かれると、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネをご覧になった。彼らも舟の中で網を繕っていた。
- 20 すぐに、イエスがお呼びになった。すると彼らは父ゼベダイを雇い人たちといっしょに舟に残して、イエスについて行った。

I・悔い改めて、福音を信じなさい！(14-15 節)

今、読んだ聖書のみことばの中でなされておりましたイエス様の宣言…、その最初は、“悔い改めて”、福音を信じなさい！×2というものでした。これは、決して、イエス様がなされた初期の頃“だけの”メッセージだというのではなく…、悔い改めと信仰とは、この聖書全体が教えてくれているメッセージでした。…そうでしたよね？

初期の頃のメッセージと言って良いのは、「時が満ちた！」とか、「神の国は近くなった！」という部分であって、悔い改めと信仰に関しては、イエス様だけでなく…、この聖書全体が明確に、私や皆さんに対して要求されてあることなのです。どうか、そういった理解を、今日このメッセージを聞いてくださっている皆さんには、持っていただきたいと思えます。

そうして、ここ15節で、イエス様は、『福音を信じなさい！』という風におっしゃっておられますけれども、ここで言われている福音とは、イエス様ご自身のことであって…、もう少し具体的に言うならば、イエス様の教えやその生涯(=十字架や復活?)のことを指しているのです。だから、この福音書を書いたマルコ

は、マルコ1:1で、『神の子イエス・キリストの福音のはじめ。』と言って、イエス様が教えてくださった様々な教えや、その行動(=十字架や死)について、詳しく私たちに教えてくれているわけです。

II・すべてを捨てて、わたしに従いなさい！(16-20 節)

さて、先週に私たちが学んだ2番目の宣言…、イエス様からのメッセージは、“すべてを捨てて”、“わたしに従いなさい！”ということでありました。このことに関して…、正直、イエス様は、「すべてを捨てて、わたしに従いなさい！」とは言っておられませんでした。しかし、イエス様が、そういったことを要求しておられるということを感じ取った4人の漁師たちは皆、イエス様の要求に応える形で、漁師という職業を捨て、持っていた網を捨て、また、ある者たちは家族を捨ててまで、イエス様に従っていきました。そうでしたよね？

確かに、ここ16-20節でイエス様から招かれた者たちは皆、12弟子という特別な働きのために召された者たちでした。この後、彼ら12人は、イエス様から特別な訓練を受けて、イエス様が昇天されて以降、12使徒として、特別な働きのために用いられていきました(ユダ⇒マツテヤ)。それは確かです。

でも、どうか、皆さん、考えてみてください！…果たして、イエス様が誰かを招かれた時、「あなたは、そのままで良い！何も変わらなくて良いから、ただ、このわたしのことだけ信じたら良いのですよ…」という風におっしゃられたでしょうか？それとも、イエス様は、「あなたは、何者にも勝って、このわたしのことだけを信じ従いますか？」ということを問われたのでしょうか？…どっちだったでしょう？

例えば、ルカ12:9で、イエス様は、こう教えてくださいました。『しかし、わたしを人の前で知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われる。』って…。また、ルカ14章でも、イエス様は群衆に向かって、『26 わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのちまでも憎まない者は、わたしの弟子になることができません。 27 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。』というような、大変厳しいメッセージを発せられました。

また、ヨハネ12章で、イエス様はこうもおっしゃっておられます。『25 自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。 26 わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいる所に、わたしに仕える者もいるべきです。もしわたしに仕えるなら、父はその人に報いてくださいます。』って…。また、先週は時間の関係もあって紹介できなかったマタイ13章で、イエス様は、こう教えてくださいました。『44 天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。 45 また、天の御国は、良い真珠を捜している商人のようなものです。 46 すばらしい値うち真珠の一つを見つけた者は、行って持ち物を全部売り払ってそれを買ってしまいます。』って…。

いかがでしょう？こういったみことばで、イエス様は、本当に救われた者たち…、つまり、神の真理を知った者たちは皆、イエス様を信じ従おうとするが故に…、また、自分には救いが必要であると信じるからこそ、すべてを捨てても…、イエス様に従おうとするはずである！ということをお教えくださったのではないのでしょうか？…それが、先週に私たちが学んだ内容でありました。

III・わたしの 権威 を認めよ！(21-28 節)

最後、今から、3つ目のポイントを見ていきましょう。どうぞ、今度は、今回のみことばの内21-28節をご覧ください。そこで、マルコが教えてくれていることは、このイエス様にこそ、最高の“権威”がある！つまり、イエス様からすると、「わたしに従いなさい！私の“権威”を認めなさい！」というメッセージであります。先程の続き…、マルコ1:21-28には、こう記されています。

- 21 それから、一行はカペナウムに入った。そしてすぐに、イエスは安息日に会堂に入って教えられた。
- 22 人々は、その教えに驚いた。それはイエスが、律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように教えられたからである。
- 23 すると、すぐにまた、その会堂に汚れた霊につかれた人がいて、叫んで言った。
- 24 「ナザレの人イエス。いったい私たちに何をしようというのです。あなたは私たちを滅ぼしに来たのでしょうか。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です。」
- 25 イエスは彼をしかって、「黙れ。この人から出て行け」と言われた。
- 26 すると、その汚れた霊はその人をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。
- 27 人々はみな驚いて、互いに論じ合って言った。「これはどうだ。権威のある、新しい教えではないか。汚れた霊をさえ戒められる。すると従うのだ。」
- 28 こうして、イエスの評判は、すぐに、ガリラヤ全地の至る所に広まった。

●イエス様が、当時の 律法学者たち と違っていた理由とは？

この時、イエス様の一行は、ガリラヤの町カペナウムへと入ります。今から20年以上前に、私も家内も、ここカペナウムの遺跡に行きまして…、そこで、今日のみことばに出てくる会堂の跡地や、あのシモン・ペテロの家？とされる跡地も見えてきました。…今から2千年近くも前、イエス様は、そのカペナウムへ行かれて、まずは、ユダヤ教の会堂へ行って、そこで、福音のメッセージをお伝えになったのです。

そこで、私たちが注目すべきことは、当時、多くの人々がイエス様の教えに驚いた、ということでもあります。…と言いますのも、イエス様が、当時の“律法学者たち”とは違って、22節にあるように、“権威ある者のように”教えられたからだという風に、今日のみことばは教えてくれています。…ここだけでもありません。あの「山上の説教」が語られた後で、マタイは、その後で、こう締めくくっています。マタイ7章、『28 イエスがこれらのことばを語り終えられると、群衆はその教えに驚いた。29 というのは、イエスが、律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように教えられたからである。』って…。

どうぞ、皆さん、まずは、「権威」ということについて、少しだけ考えてみましょう…。「権威」という言葉を辞書で調べてみますと、こんな風に説明がされてありました。「①他の者を服従させる威力。②ある分野において優れたものとして信頼されていること。」って…。聖書は、至るところで、イエス・キリストが様々な権威をお持ちであったということが教えてくれています。今日は、時間の関係もあって、いちいち、聖書の箇所を挙げませんけれども、例えば、イエス様は、①罪を赦す権威、②病を癒す権威、③汚れた霊たちを追い出す権威、④すべての人を支配する権威、⑤自分のいのちを捨てる権威とそれをもう1度得る権威など…、たくさんの権威を、イエス様はお持ちでした…。

そうして、そういった中でも1番有名なのは、このお言葉でしょう。マタイ28:18、『…わたしには天においても、地においても、“いっさいの権威”が与えられています。』って…。皆さん、分かっていただけます？ここで、イエス様が発言された、『いっさいの権威』という表現には、ギリシャ語の「πᾶς (パース)」という言葉が使われてあります。この言葉は、「すべて、全部の、あらん限りの…」という意味なのです。だから、ここで、『いっさいの権威』というみことばを、新改訳2017では、『“すべての権威”が与えられています』という風に訳してくれています。

つまり、「このイエス様こそは、すべての権威をお持ちであった！（天においても地においても…）」ということ、この聖書は教えてくれているわけであって…、もしも、このみことばが教える通りに、イエス様がすべての権威をお持ちであったら、一体、誰が…、果たして、どのような権威を持ち得るでしょう！…そうじゃありません？

ちょうど、そういったことと関連のある話なので、ちょっと、しばらくの間、聞いてくださいますか？…その昔、私は、教会で、こんな質問をされたことがあります。「一体どうして、この教会では、牧師でない者が礼拝のメッセージを取り次いでいるのですか？」って…。皆さんも、ひょっとしたら、そういった疑問をお持ちになったことがあるのかも知れません…。

しかし、私はこう考えています、キリスト教会にあって、一切の権威は神様のみ、あるべきです。そうじゃないでしょうか？…だから、私は、今月の聖餐式の時も皆さんに言いましたように、「この教会員は聖餐式に預かるべきだとかそうでないとかを、牧師が判断する」とかっていうのがイヤなんです。実際、1コリント11:28でも、『…“ひとりひとりが自分を吟味して”、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。』と教えるわけですから、私は、そのみことばにならって、八田西CCでも、牧師ではなくて…、基本的には、1人1人が“自分で”判断すべき事柄だと思っています(何かの問題から来たペナルティは別として…)。

「牧師でない人が、(あるいは)専門的な訓練を受けていない者が、礼拝でみことばを語るの、ちょっと…」と考える人は、一体、どこに権威があると考えておられるのでしょうか？…牧師個人でしょうか？それとも、神学校でしょうか？あるいは、それ以外の何かでしょうか？

正直言って、牧師や特定の神学校に、ある程度の権威を認める人たちが、キリスト教会には少なからずいるということは事実です。しかし、何度も言いますように、キリスト教会において権威を認めるべきは、神様だけだと私は思います。確かに、聖書全体を見たら、長老を始め…、牧師や教師たちを敬い、従うべきことが教えられてあるのも事実です。しかし、それは、あくまでも、牧師や長老たちが、聖書のみことばが教える条件に適合しているからであって、みことばの条件に適合していない牧師に従う必要があるでしょうか？あるいは、みことばの教えと違ったことを教える長老たちに、果たして、私たちは従うべきでしょうか？

残念ながら、ここ日本には、立派な大学を卒業して…、尚且つ、有名な神学校を卒業したり、海外に留学されていても、「私たちは価値があるから救われた！（とか）君は愛されるために生まれた！」というような…、決して聖書的ではないメッセージをされている牧師先生たちが数多くおられます。私からすると、「一体、何をもち、そのようなメッセージをされているのだろうか？」と思ってしまうます。

はっきり言って、私は、どこそこの有名な神学校を卒業されているとか…、あるいは、海外に留学されたとか、何か国語が話せるとか、そういったことではなくて…、しっかりと聖書のみことばに耳を傾けて、神のことばを正しく伝えたい！と考えているメッセンジャーの方を聞きたいと思えます。皆さんも、そうじゃありません？(私たちは間違えないというわけでは無いが…)

話を、今回のみことばに戻しますと、イエス様に権威があったのは、簡単に言うと、イエス様が神そのものであったからです。…と同時に、イエス様の語るメッセージに、多くの者たちが権威を感じたのは、イエス様が神のお言葉である“真理を正しく教えてくださったから”、ではないでしょうか？…だから、今回のみことばに登場してくる汚れた霊(=悪霊)も、イエス様に従うしか無かったのです。今のキリスト教会においても必要なことは、やれあの牧師先生は…とか、あの神学校を卒業しているから…ではなくて、イエス様の権威を認めること…、真理を1番に重んじる態度こそが、1番必要なのではないのでしょうか？

●汚れた霊 までもが、イエス様に従った理由とは？

どうぞ、もう1度、今日のみことばに注目してみてください。23節をご覧くださいと、会堂に、汚れた霊につかれた人が出てきます。すると、その汚れた霊(=悪霊)は、イエス様に対して、言葉をかけます。それが24節の言葉です。『ナザレの人イエス。いったい私たちに何をしようというのです。あなたは私たちを滅ぼしに来たのでしょうか。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です。』…今日は、時間の関係もあって、この内容を、詳しくは見ません。しかし、ここの内容は、大体、間違っはおりません。

だからでしょう…。イエス様は、悪霊が放った内容を否定するのではなく、ただ単に、こうおっしゃいます、『**黙れ！この人から出て行け！**』って…。すると、その霊は、ほとんど逆らうこともできずに、出て行きます。このように、イエス様の言葉には、権威があります。それは、当時の者たちの“単なる思い過ごし”ではありません。皆さんも、よくご存じでしょう。例えば、イエス様は、ガリラヤ湖で嵐が起こった時、風を叱りつけて、『**黙れ！静まれ！**』と言われたら、嵐が止んだという記事がマルコ4章にも載っています。このように、イエス様のお言葉には間違いなく“権威”があります。…それは、まるで、**創世記1章で、神様が「光があれ！（とか）大空が水の真ただ中であれ。水と水との間に区別があれ。」**とおっしゃると、そのようになったのと同じです。このように、イエス様は真の神であったがゆえに、イエス様のお言葉には力があつたのです。

さて、そこで、**私たちが注目したいことは、イエス様のお言葉には、例え、悪霊でも従ったということです。**皆さん、悪霊の正体をご存じでしょうか？⇒悪霊というのは、初めから悪霊であったのではなく、もとは、神様によって造られた天使でありました。しかし、その一部の者たちは、ある時に、神様に逆らって、罪を犯してしまいました…(Ⅱペテロ2:4)。それが、悪霊たちであります。

よく私たちは、**創世記1:26のみことば**などを引用して、「**私たち人間は、神に似せて造られた…、特別な存在である！**」という風なことを言います。確かに、**創世記1:26-27には、こう記されてあります、『26 神は仰せられた。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をばうすべてのものを支配するように。」 27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。』**って…。正直、私も過去、そういうメッセージをしたことがあります。今も、それが間違っているとは思っていません。

でも、皆さん、考えてみてくださいませ？…果たして、神に似せて造られたのは、私たち人間“だけ”なのでしょうか？…実は、私は以前から、神は、私たち人間だけでなく、御使いたちも、“神のかたち”に似せて造られたのではないかと、思っています。もちろん、聖書のどこにも、そのような記述…、教えはありません。でも、どうか、皆さん、考えてみてください。一体、神様と私たち人間って、どこが似ています？

よく言われるのは、**私たち人間には霊があって、それ故に、私たち人間には、霊的な存在である神様のことを理解できるとか、善や悪を判断できるなどと言われます。**また、それ以外にも、私たち人間は、永遠などの概念を理解することができます。確かに、そうです！…でも、そういった共通点って、私たち人間だけじゃなくって、御使いたちの方こそ、そうじゃないでしょうか？…だって、人間以上に、御使いたちの方が、肉体を持っていないし…、死ぬことが無いし、私たち人間のような性別も無いということを見ると、私たち人間以上に、御使いたちの方が、神様に似ているとは言えないでしょうか？

また、似ているのは、御使いたちも、私たち人間も、ある時に、神に逆らって罪を犯してしまったところなんです。しかし、どういうわけか、神は、私たち人間には救いの道を用意してくださったのに、御使いたちには、そのような救いの道を備えてはくさいませんでした。そうでしょ？…確かに、**ヘブル2:16に、『主は御使いたちを助けるのではなく、確かに、アブラハムの子孫を助けてくださるのです。』**と教えられてある通りです。

一体どうして、私たち人間には救いの道が備えられたのでしょうか？冒頭でも話したように、現代のキリスト教会なら、「それは、私たちに価値があるからですよ！」と言うかも知れませぬ…。また、一体なぜ、天の神様は、罪を犯した私たち人間や悪霊たちのことを、すぐには裁かずに、今もある程度の自由を与えて…、放っておかれているのでしょうか？皆さん、どうしてだと思われませ？⇒聖書のみことばは、こう教えます、「それは、天の神様があわれみ深かったからです！」ですから、例えば、**哀歌3:22には、こう教えられてあります、『私たちが滅びうせなかつたのは、【主】の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。』**って…。また、エペソ2章でも、私たちが救われたのは、神様の①憐れみのおかげであり…、②大きな愛の故であり、③恵みである！と教えてくれていますでしょ？

<励ましの言葉>

一体どうして、私たち人間や悪霊たちが今、裁かれずに、生かされているのか？…それもまた、神様の憐れみであり…、神様の恵みの故です！…と言いますのは、例えば、**Ⅱペテロ3:9では、こう教えられてあります、『主は、ある人たちがおそいと思つているように、その約束のこゝを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。』**って…。

良いですか？皆さん！天の神様は、今も、私たちに對して忍耐してくださっているのです！…と言いますのは、それによって、1人でも2人でも救われる人が起こされていくからです。そうでしょ？…悪霊たちが直ちに滅ぼされないのも、神様の憐れみによります。しかし、明らかなのは、神様からの憐れみは、御使いたちよりも、私たち人間の方に、より多く注がれています。そうでしょ？…また、天の神様は、そのような悪霊たちさえ、神の最善なる御計画のため…、神の御栄光のために用いられるのです。

今日、最後に、私が皆さんにお願いしたいのは、どうか、今日…、1日も早い内に、あなたの罪を悔い改めて、真の神であり、救い主であるイエス様を信じ、受け入れてくださることです。…確かに、天の神様は、憐れ深く…、忍耐強い御方です。しかし、だからと言って、私たちに、いつまでも時間があるわけではありません。いつか必ず、私たちの命は尽きるし…、いつ、イエス様が再臨されるかも分かりませぬ。どうか、一刻も早く、まだ、救いの可能性がある内に、イエス様を信じて、この救いをご自分のものとしていただきたいと思つています。

また、クリスチャンの皆さんにも、お勧めします。イエス様のお言葉には、悪霊たちでさえ逆らうことができませぬでした。…イエス様のお言葉には、それだけの権威があつたからです。…と同時に、イエス様は、悪霊たちには、選択の余地は与えず、強制されました。しかし、私たち人間に對しては、どういうわけか、神様も、イエス様も、私たちの自由意志を尊重し…、私たちが自分で神様に従えるよう、導いてくださっています。どうか、その神様の信頼や期待を裏切ることなく、忠実に歩んでいただきたいと思つています。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。